

平成 23 年度学術ポータル担当者研修

2011.8.3 (名古屋大学) 2011.8.24 (NII)

モデルサービスの企画意図と技術設計

山本哲也 (名古屋大学 情報連携統括本部情報推進部)

■講師について

昔、職業プログラマーだったことがありますので、技術的な知識ではお教えできることがあるかもしれません。とはいえ、新しい知識はそのつど勉強すべきものですから、技術的な知識を必要に応じて仕入れる「コツ」が多少わかっている、と言いなおすほうが、より正確かと思います。頭の中にいつも知識が入っているわけではなさそうです。

苦勞をしてシンプルなものを作るのは好きですが、苦勞をして難しいものを作って苦勞を再生産することは好きではありません。

座右かもしれない銘：「車輪を再発明するな」「怠惰は美德」「Keep It Simple and Stupid (KISS 原則)」

■オープンアクセスサービスについて

「機関リポジトリ」に、国内ではかなり早いうちに取り組み始めました。主にシステム面の担当です。DSpace を運用する都合で、これに一番詳しいです。聞いて教えてもらえる相手がきわめて少なかった頃なので、やむなく英語のドキュメントやソースコード自体を読んで調べました。ハンドルサービスへの登録や、OAIStar へのハーベスト依頼なども手探りでした。DSpace をカスタマイズするためにコードを書いたこともあります。

そのくせ (それゆえ?)、DSpace はあまり好きではありません。DSpace がバージョンアップを繰り返して必要以上に多機能になっていくことにも不満です。機関リポジトリって、そんなに複雑なソフトウェアを使って作らなくちゃいけないのかな？

機関リポジトリがやるべきことを要素にバラして考えると、各収録アイテムへの URL が安定していて、収録物のメタデータを外部に渡す機能だけがあればもう充分なんじゃないかな、という極論めいた気持ちも起こってきます。データの検索やブラウズ機能なんかは、メタデータをあげた相手に任したらいいんじゃないかなあ、などと。

これを「システムどうしの効果的な連携について洞察を深めている」と良く解釈してくださいってもかまいません。よろしくお願いします。